

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」
による派遣研究者研究報告書

平成 26 年 6 月 1 日	
所属部局・職	霊長類研究所生態保全分野・修士課程学生
氏名	有賀菜津美

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
宮崎県串間市、幸島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
幸島実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 5 月 11 日 ~ 平成 26 年 5 月 17 日 (7 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究センター 幸島観察所、鈴木崇文氏
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

<p>今回の実習では、宮崎県串間市にある幸島へ行った。幸島はニホンザル(<i>Macaca fuscata</i>)研究発祥の地としても知られ、現在も京大の内外を問わず、様々な研究者が研究をおこなっている。そんな幸島でおこなわれた実習は、野生のニホンザルを観察すること、研究のプロセスを一通り経験することを目的としていた。実際の大まかなスケジュールは以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none">● 5月11日(日) 15時観察所集合。自己紹介、予定の確認。● 5月12日(月) 悪天候のため、幸島へ渡れず。都井岬で御崎馬の観察(写真1)。翌日からの研究計画を練る。● 5月13日(火) 9時幸島へ。鈴木さん、高橋さんに山の中を案内していただく(写真2)。各自、テーマに沿った観察を実施。観察所でデータの見直し、計画の立て直し。● 5月14日(水) 9時幸島へ渡り、観察を実施(写真3)。データのまとめ、解析。● 5月15日(木) 発表の準備。● 5月16日(金)
--

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」
による派遣研究者研究報告書

発表の準備。発表会(写真4)。

● 5月17日(土)

12時観察所解散。

私の研究テーマは、「ニホンザルの箱ワナを模したケージの利用について」だった。今回の実習では自由に研究計画を立てることができたため、自分の経験(神奈川県厚木市でのニホンザル捕獲事業)に基づいたテーマを扱うことにした。100円ショップで手に入れたワイヤーネットを結束バンドで5枚組み合わせて箱ワナを模したケージを作製し(写真5)、どんな個体がどのように利用するのかということ进行调查した。どのようなデータを取れば、解析をかけることができ、仮説を証明することができるかなど、研究計画を立てるところから指導していただいた。解析過程や結果、考察を考えながら計画を立てるという作業は私にとって難しかったが、参加学生や先生らと意見を交わすことでよりよい研究計画を立てられたことはとてもよかった。また、引率してくださった辻大和先生、今井伸夫さんからは研究をおこなう上で知っているよい論文の検索方法や管理方法、Rの使い方、おすすめの本などを聞くことができた。すぐに実践できるものが多く、嬉しかった。そしてデータを取った翌日からは、実際に自分のデータを使ってデータの整理や統計をおこなった。計画の時点では気づかなかったことや事前に予想できなかったニホンザルの反応なども多く、頭を悩ませたが、その都度周りの学生と意見を交換し、観察所の鈴木さんや高橋さんからもたくさんの意見をいただいた。2日間しかなかったため十分なデータを取ることはできなかったが、自分のデータで結果を出し、英語でスライドを作り、発表するという過程を経験できたことは大きかった。実習中は目の前にある問題を解決することでいっぱいだったが、これから実際に修士課程で研究をおこなう上で必ずやるであろうプロセスを一通り体験することができたなど、改めて実感した。



写真1 都井岬で御崎馬の観察



写真2 トレッキングの様子

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」
による派遣研究者研究報告書



写真3 個体識別は写真を撮影し行った



写真4 発表会



写真5 箱ワナを模したケージ



写真6 アルファのカバと記念撮影

6. その他 (特記事項など)

今回の実習を行うにあたり、適切な助言を頂き、熱心な指導を受け賜りました、辻大和先生、今井伸夫さんには深く感謝いたします。さらに、ご支援ならびにご協力いただきました幸島観察所の鈴木嵩文さん、高橋明子さんに深く御礼申し上げます。